

第2回津島市子ども・子育て会議 議事録

開催日 平成28年10月13日(木)
時間 午前10時00分～午前11時30分
会場 津島市立図書館2階大集会室

出席 委員 13名出席(18名中)
事務局 4名

議題

(1) 津島市子ども条例推進計画(案)について

事務局 津島市が行っている児童に対する施策に、前回会議で追加意見等をいただいたものをまとめ、推進計画(案)を作成した。これは、津島市の次世代育成支援行動計画を参考に施策をとりまとめたもの。

具体的な数値目標を、掲げた方がよいものについてご意見をいただきたい。

推進計画をよりよいものにするために、委員の皆様の意見をいただき市民にわかりやすく、子どもたちを健やかに育てていくための計画を策定する。

会長 前回の会議で出た意見を盛り込んだうえで、推進計画(案)を作成している。今後の方向性としてパブリックコメントを行う計画の報告があった。

意見や質問等をいただきたい。

委員 9ページ②-2 放課後子ども教室について、「子どもたちの放課後の居場所づくりを目的に」とあるが、8ページ「(3) 家庭や地域の教育力の向上」とあるように、国では放課後子ども総合プランの中で、放課後子ども教室の目的として、放課後にすべての児童を対象として、学習や体験、交流活動などを行うとある。学童保育との棲み分けという意味でも、わかりにくいのではないか。

事務局 関係担当課と調整した上、適宜改める。

委員 ②-2の続きの9・10ページ「国が定める「放課後子ども総合プラン」に基づき、放課後児童クラブとの一体化事業を進めます。」とあるが、これは放課後児童クラブと放課後子ども教室が1つの事業になる展開を目的としてるように読み取れるが、本来の形態である放課後子ども教室が実施するプログラムに、放課後児童クラブの児童が参加できる形にすることが国が求める一体化である。この一文だけでは読み取れない。津島市の放課後の場所ということを考えたとき、市民・保護者の方に放課後児童クラブと放課後子ども教室がどのような性格のもので、どのような事業をしているのか、補足説明が必要ではないか。

事務局 津島市として放課後の子どもの居場所を、一体化とは限らずにどのような形で連携していくのか、津島市としてどういう方向で、どう考えていくのかを放課後児童クラブと放課後子ども教室それぞれと相談しながら進めていくということがわかりやすくなるよう説明を改める。

委員 12ページ④放課後児童健全育成事業について、前回の会議で今後の方向性として

学童保育を（放課後児童健全育成事業）をどのように進めていくかという中で、平成 31 年度までを目標として条例に基づく実施という内容を含んでいただきたいと提案させていただいたが、ここには反映させていない。また、保育料（学童）の減免等についても検討していただきたいといった件は、15 ページ⑥子どもの貧困対策に含まれているということによいか。

事務局 前会議の施策の詳細である具体的な数値は今後、事業の実施状況の中で細かく入れていく。今回の計画（案）には、現在は詳細な目標数値は入れていない。明記の方が望ましいということであれば、その方向で検討していきたい。保育料の減免等について、貧困対策という幅が広がってしまう、保育料については一部減免があるので、保育園・学童を含めて一部免除できるか、検討してまとめていく。

会長 たしかに貧困対策に入れると焦点がぼやけてしまう。他に目標数値を入れるといった意見はないか。

事務局 数値目標を入れるためには、関係担当課との調整等が必要となるため、今回は、計画（案）に入れられなかった。今後パブプレックコメントを行うにあたり、関係各担当課に詳細な数値目標をあげてもらい、計画（案）に載せ、各委員にパブプレックコメント実施前に配布し、追加や数値目標について意見をいただきたい。

会長 スケジュールとして、関係担当課と調整し、目標を入れてパブプレックコメントを行うということだが、いつくらいになるか。

事務局 12 月から 1 月の間には実施したいので、概ね 11 月中には、配布しパブプレックコメントを行うという予定である。

委員 12 ページ④放課後児童健全育成事業について、条例に基づいてというのは、現在施設の面積要件において、措置により実施している。平成 31 年度末までには概ね 40 人以下にしないとイケないので「平成 31 年度までに」を文書に入れないということであれば、数値目標として具体的に示していただきたい。

事務局 文書等検討する。

委員 8 ページ④特色ある学校づくりについて、津島市は越境入学を認めていないため、地域に根ざした結果として特色のある学校となることであり、特色のある学校を目指していくのはどうなのか。地域に根ざした学校づくりの方がよい。特色のある学校を目指して、その学校に入れないのであれば、人権侵害になりかねない。

事務局 学校づくりというのは、地域も含めてのものである。隣の学校がよいということで、みんなでそういう学校にしていくというのもよいが、地域に根ざした学校づくりでもよい、検討する。

委員 12 ページ⑥園開放について、「保育所の園庭」とあるが、幼稚園でも園開放を全園行っている。幼稚園を入れるべきである。

会長 他にもないか、全体を確認すること。

委員 18 ページ 4 子どもの参画の推進について、内容が薄い。津島市として推進にあたってどうしていくのかわからない。もう少し具体的に書くとよい。

会長 たとえば、どんな案を追加していくとよいと思うか。

委員 子ども会議の開催とある。珍しくてよいことなのでこれを推進するためにどうするかなど、具体的に書いたほうがよりよい。アンケートについても項目を作っても

よい。

会 長 「子どもが参画する会議の開催の推進その他の必要な支援」について条例自体も細かく書いていないので具体的なところで、推進するために、どう膨らませるのかということである。

事務局 子ども条例の中で子どもの参画の推進は、今までにない新たな視点ということで、津島市としてこれに対する施策がまだ描けていない。計画がないと進められないので、具体的な方向性を示していきたい。

委 員 12ページ⑤長期休暇期間の小学生の居場所づくりについて、「安心・安全な居場所や昼食の場所を提供します。」とあるが、夏休みは各家庭の弁当持ちではなかったか。この文章だとお昼も用意してもらえるように期待されるのではないか。

事務局 夏休み利用者アンケートの中に、昼食も用意してほしいといった内容も多くあった。今後昼食の提供についても、検討課題としているが精査する。

委 員 今年の夏休みの利用者は何人ほどいたか。

事務局 今回の夏休みの預かりについて、定員40人で募集をかけ、申し込みは120人あった。中央児童館の施設の面積、受け入れ態勢を考慮した結果、60人承諾を出した。その中で毎日利用される方、週に数回の方もおり、お盆期間は少なかったが、常時40人から多い日で50人くらいの利用であった。

会 長 アンケートをとった利用者とは、保護者か児童か。

事務局 アンケートは保護者に配り、保護者の満足度と子どもの満足度を記入してもらった。記入したのは保護者かもしれないが、「楽しかった」など子どもからの意見があった。今回のアンケートは、保護者と子どもの集計を出しており、小学生1～3年生が多かったため、高学年の子どもは同年齢が少ないので、さみしかったとの意見もあった。

会 長 子どもの参画など議論がある。利用しているのは子ども自身なので当事者としての子どもの意見がよく吸い上げられるように工夫をするとよい。

委 員 今後も中央児童館で実施するのか。

事務局 受入の定員人数を超える申し込みがあったため、今後どういう形で実施するのか、場所を増やす、学校で行うなど検討している。計画（案）には長期休暇期間について、場所等確定せずに拡大も含めて検討している。

委 員 その時の場合によって、場所が変わるということか。

事務局 今後進めていく中で、津島市としてどういう体制がとれるのか、夏は児童館で実施したが、今後拡大して実施できるかなど検討する必要がある。

委 員 津島市が今回実施した長期休暇期間の子どもの居場所づくりということだか、学童保育も子どもを朝から預かり保育を実施している。学童保育は面積要件など条例もあり、指導には全員ではないが、子育て支援員として資格を持ったものが指導にあたっている。保有資格も基準もないこの預かりとの棲み分けはどう考えているのか。学童保育の拡大は考えていないのか。

事務局 長期休暇期間の子どもの居場所づくりとして、津島市独自で行った。近隣等の自治体では、学童保育で長期休暇のみの受け入れも行っているところもあるので、そこを参考に学童関係者と話をしながら学童保育での長期休暇預かりについても視野

に入れていないわけではないので、津島市の保護者や子どもにとってよい方法を検討していく必要がある。

委員 11ページ①障がい児保育事業の促進「保育所及び幼稚園と障がい児通所施設との連携をいっそう深め、保育所等の受け入れ体制を改善しながら、すべての施設で障がい児の受け入れをできるよう進めてまいります。」と非常に重要なことである。保育所等と障がい児通所施設との併用は、障がい児が発達するうえで重要な施策だと思うが、その中で保育所等と障がい児通所施設の利用料が保護者の負担になるので、13ページの保育料の一部免除に入れていただきたい。

委員 併用通所は、段階を経て行う中で、利用料の問題は聞いている、近隣の自治体の状況を確認しながら検討していく。

会長 推進計画に入るように尽力してほしい。

会長 今後意見等があれば事務局に直接でよいか。スケジュールのこともあるので数値目標のことなどであれば関係各担当課との調整もあるので早めに連絡すること。よりよい計画を作成し、パブリックコメントを通して、市民の方に共感を得るものになりたい。

(3)その他

事務局 前回の会議で次回の報告事項となっていた乳児全戸訪問事業の実績における詳細内容を報告することとなっていたので報告する。

27年度実績

訪問予定件数 363件

訪問実施件数 356件（7件未実施）

【7件についての内容】

- ・他市への居住実態もしくは転出 4件（他市と連携をとり、他市において家庭訪問や4か月検診での面談を行った。）
- ・津島市において4か月検診での面談実施（他市で居住実態）1件
- ・津島市において4か月検診での面談実施（保護者の精神疾患）1件
- ・津島市において4か月検診での面談実施（家の新築）1件

会長 結果的には100%対面して、他市との連携も含めて把握をしているということである。訪問において最近の傾向や課題などあるか。

事務局 訪問職員からは、予防接種などの件について相談を受けるので、今後も丁寧に対応していくなど、この事業は重要なことであると感じる。

会長 切れ目のない支援ということでワンストップで把握して、早め早めの対応をすることが必要である。

次回開催は、日程調整のうえ、1月か2月に開催する。